北海道旭川永嶺高等学校　第２年次通信

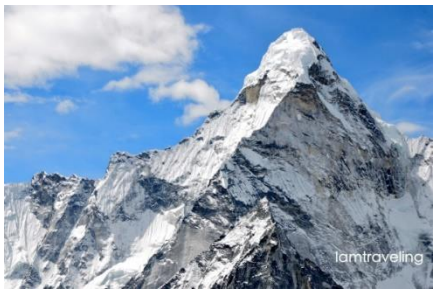
銀嶺の風

大雪山
Asahidake

2020 年 8 月 1 7 日

NO.13

ー　高校生としての後半戦が始まる　ー



16 日間という短い酷暑の夏休みでした。日によっては体温を越えるような気温で、日中を過ごす辛さをひしと感じましたね。さて、学校が始まりましたが、考えてみると高校生活も半分を終えたのですね。もう社会に飛び立つ準備をする人も出てきてもおかしくはありません。公務員を目指す人や看護職に就こうとしている人に対して、学校として対策をし始めます。また、進学に限らず進路先を固めさせ、その志望理由を考えさせることや、小論文の書き方指導もスタートさせます。秋には、志望校別集会を計画しています。少しずつ進路を意識して自分の進路を考えさせる取り組みをしていきたいと思います。

自分の良さをよく自覚しよう

自分の進路を考えるときに深く関係してくるのは、自分がどういう職場について、どういう力を発揮するのかということでしょう。面接での質問で「長所、短所」を聞くことがあります。自分には良い部分なんて無いです。将来やりたいことも見つかりません。それは困りましたね。実際に社会での経験もありませんし、自分自身のことを冷静に見ることも難しいことです。

しかし、どんな人にも良いところはあります。小さなことでもそれを大切にしていくことで、その人の良さになっていくこともあるのです。例えば地道に同じことを嫌にならずにできることも美徳です。逆に落ち着きがない人は、好奇心が旺盛だということなので、ひょっとしたら流行に敏感な人になり得る可能性があります。話を聞くことが上手な人や逆に話しをすることが好きな人も居ますが、とても大事な能力です。手先が器用で何かを作り出すことが好きな人。体を動かすことが好きな人。社会に必要なスキルはたくさんあります。

いろいろな人がいるからこそ社会が成り立つわけで、世の中を広く眺めてみると、自分に合った仕事はありそうです。そろそろ自分の良さが引き立つ将来の仕事を探してみては？

人間関係って…難しい！

学校でも職場でも、問題視されるのは、雰囲気になじめない、友人がいないという問題でしょうか。それが問題で悩む人は多いと思います。人間関係を良好に結べることも能力なのだと思います。でも、それが苦手な人は多いと思います。無理をしなくても近くの人と話をしなくて済む社会が、それを苦手とする人を生み出しているのでしょう。

周りを見て悲観するよりも、自分自身が少し変わることが、大事かもしれませんよ。自分のことを理解して欲しいのならば、相手の良いところを理解して柔和に受け入れることができれば、見える周囲の人の表情も和らぐことでしょう。

それでも駄目ならば距離をおくことも大事です。無理をしてギクシャクしない方が得策でしょう。「類は友を呼ぶ」ことを信じて気の合う人を探しましょう。待っていても駄目ですよ。

神さま　仏さま　お願い

―何もかも上手くいきますように―

一般的に受験生として受験勉強を意識させるのは、見学旅行が終わった１１月初旬です。楽しかった思い出で満足な高校生活をかみしめて、次のステージに立つ自分を想像しながら受験を迎える。その為には気分の切り替えが必要だと考えるので、早く見学旅行を設定する学校も少なくありません。

しかし、今年は異常事態です。高校の見学旅行は一生に一度しかないでしょう。それが無くなるのは忍びないと思います。どうしても実施させたい。仕方なく受験期に入るタイミングと重ねながら実施するしかありません。それならば、心配なことは浮つく気持ちでいつまでも受験体制に入れない生徒をなくしたいと思うのです。

受験に入るタイミングは早ければ早いほうが良いと思います。１年生で勉強したことをすっかり忘れてしまっている人が多いからです。ですから、あと２ヶ月もしたらまた、先生たちは勉強、勉強と五月蠅くなるのでしょうね。（うるさがらないでほしいです。３年生の３月にもっと早く始めれば良かったという人が現に多いのですから）今は、毎日の勉強時間を４４分から「２時間」を目指すしかない。夢の実現する魔法はないのだ。

―若いうちの苦労は買ってでもせよ　―

どうして皆さんが嫌がる「勉強」をさせたがるのでしょう。私の人生に絶対に必要ないという生徒もいます。でも、それでは逆に、「あなたにはどんな力がありますか。」あなたには、社会から必要とされる力があるのならば、それ以上の勉強は必要ないでしょうね。でも、現実的には若いだけで、それほどの力は持ち合わせていないでしょう。勉強する理由は、専門領域に役立つからということももちろんありますが、社会から必要とされる力は、学校での基礎学力や人間関係の学習を積み重ねたからこそ活かせることが多いのです。

人気がある企業は、「人」を大事にします。企業が人を育てることもするでしょうが、最初から企業が苦労する人を選ぶはずはありません。「たいへんなことも難なく乗り越える人」を求めています。学校できちんと「自分に責任を課して努力する人」だけがそれに値します。そういう忍耐力がある人は、少々のことで投げ出すことはないはずです。そういう責任感ある人が多く集う所で、力を合わせる企業こそが、将来性があるのではないでしょうか。そういう「選ばれる人」になりましょう。

本校で公務員を考える生徒も少なくありませんが、公務員試験で合格する人は、本当に優れた人が選ばれていると感心します。つまり、ほんの１０数分で行う面接で、面接官はよく見抜くなあと言うことです。その場だけ取り繕えばいいさと考えないことです。ごまかしは全く効かないと言うことを分かっていて欲しいと思います。高校生活を適当に済ませていた人は、本当に受かりません。公務員に限りませんが、薄っぺらい考えは、思いも寄らない質問の前には無力なものです。しっかりとした学校での活動とそれを通してどういうことを考えたのか日頃から訓練しておきましょう。

学校で経験したことや学んだこと、つまり若いうちにインプットしたことがなければ、アウトプットなんて出来ません。自分がアウトプットしたことでしか社会貢献をし、報酬を受け、生きてはいくことはできないのです。

８月の行事予定

１８日(火)　G-TEC
２３日(日) 第１回英語検定２次
２４日(月)　生徒会役員選挙告示
２９日(土)　高２看護模試
３１日(月)　G-TEC　SPEAKING